

副専攻名称	(1) 経済学副専攻コース
担当責任者	経済学部 教務委員会 (代表 経済学部 教務委員長)
取得できる修了証書	副専攻 (経済学)
コースの編成・実施方針	
<p>経済学副専攻コースでは、経済学の基礎的知識と考え方を修得し、更に応用分野での学修に必要な基幹科目での知識と考え方を修得することを目的とする。本コースの指定科目としては、経済学部開講科目の中から、経済学の基礎的知識と考え方の修得のために基礎教育科目の講義を、また基幹科目での知識と考え方の修得のために専門科目A群の講義を、それぞれ開講する。</p>	
留意事項	<p>文学部、法学部、商学部の各学部生、科目等履修生(経済学士を有する者は除く)を対象とする。経済学部にも所属する学生は履修できない。文学部、商学部、法学部において開講されている類似科目の読替可。読替は経済学部教務委員会において行う。コース最終成果物としてレポート・小論文を課す場合がある。ガイダンスの説明会に必ず参加すること。本コースの各指定科目が所属する学部の卒業単位数に含まれているかどうか、所属する学部の学修ガイドブックで必ず確認すること。</p>
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の基礎的知識と考え方を修得できる。</li> <li>・主たる専攻と本コースでの学びを通して、複眼的なものの考え方が出来るようになる。</li> <li>・公務員試験の受験者にとっては、経済学関連科目を網羅的に学ぶことが出来る。</li> <li>・経済関連の時事問題に対して経済的思考を踏まえた意見を持つことが出来るようになる。</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<p>本コースの履修生は、次のような人材であることをアピールできる。— 主な専攻での学びに加えて、経済学に関する基礎的知識と経済的思考力を修得しており、多様な各分野において経済的要因や効率性等の視点から複眼的にものごとを捉えて企画・立案・提起できる人材である。</p>	

別表

(1) 経済学副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	基礎経済原論Ⅰ	1	2	(商) ミクロ経済学Ⅰとする	10
	基礎経済原論Ⅱ	1	2	(商) マクロ経済学Ⅰとする	
	経済政策概論	2	2	(文・法・商) 経済政策Ⅰとする	
	国際経済概論	2	2		
	金融概論	2	2	(商)金融論Ⅰとする	
選択科目	日本経済論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		10
	日本経済史Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	基礎経済数学Ⅰ／Ⅱ	1	各2		
	統計学概論Ⅰ／Ⅱ	1	各2		
	財政学Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	上級ミクロ経済学	2	2	(商) ミクロ経済学Ⅱとする	
	上級マクロ経済学	2	2	(商) マクロ経済学Ⅱとする	
	経済政策	2	2	(文・法・商) 経済政策Ⅱとする	
	国際経済論	2	2		
	国際貿易論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	国際金融論Ⅰ／Ⅱ	2	各2	(商)国際金融論Ⅰ／Ⅱとする	
	金融論	2	2	(商)金融論Ⅱとする	
	金融工学Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	経済統計論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

副専攻名称	(2) 法律学副専攻コース
担当責任者	法学部教務委員会（法学部教務委員長）
取得できる修了証書	副専攻（法律学）
コースの編成・実施方針	
<p>本コースは、法学部以外の学部の学生に対して、社会生活上の必須の基礎教養というべき法学の基礎的知識や法的思考法（リーガルマインド）を修得させることを目的とする副専攻コースである。コースの編成は、実定法の最も重要な科目である憲法・民法・刑法の総論的部分を必修科目として学んだうえで、いわゆる六法科目と呼ばれる実定法の中心的科目を選択的に履修するというものになる。</p>	
留意事項	<p>法学部生以外の各学部の学生を対象とする。開講科目は全て大講義でなされるものなので、原則として希望者は全て受け入れて、特に人数の制限は設けない。現時点では、修了認定は修得単位のみで行うこととし、それに加えて特別にレポート・小論文を課す予定はない。</p> <p>できるだけ履修する学生の便宜を図るために、法学部以外の学部で開講されている「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法Ⅰ・Ⅱ」「商法Ⅰ・Ⅱ」と読み替え可能とする。</p>
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法・民法・刑法を中心とした実定法の基礎知識についての概括的な理解が得られる。</li> <li>・法学部以外では通常開講されていないが、法の実現のためには重要な手続法についての基礎的知識を修得する機会を得ることができる。</li> <li>・公務員試験受験者にとっては、専門試験に必要な法学関連科目をより深く学ぶことができる。</li> <li>・今後社会生活を行う上で関わることになる様々な法令の理解が容易になるための、法的なものの考え方の基礎を身に付けることができる。</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<p>卒業後、公務員（行政系、警察などの公安系）であっても民間企業就職であっても、そこには様々な法令や規則、ルールが存在し、それを理解し使いこなすことが求められる。そこで、各学部で学ぶ専攻のほかに、法学の基礎知識を修得していることで、そうした新しく出会う規則についても比較的容易に理解できるようになる人材を養成することができる。</p>	

(2) 法律学副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	憲法ⅠA/B	2	各2	(文・経・商) 憲法Ⅰ・Ⅱとする	12
	民法ⅠA	1	2	(文・経・商) 民法Ⅰ・Ⅱとする	
	民法ⅠB	2	2	(文・経・商) 民法Ⅰ・Ⅱとする	
	刑法ⅠA	1	2		
	刑法ⅠB	2	2		
選択科目	行政法ⅠA/B	2	各2	(経・商) 行政法Ⅰ・Ⅱとする	8
	行政法ⅡA/B	2	各2		
	民法ⅡA/B	2	各2		
	民法ⅢA/B	2	各2		
	民法ⅣA/B	2	各2		
	民法ⅤA/B	3	各2		
	刑法ⅡA/B	2	各2		
	企業取引法A/B	2	各2	(経・商) 商法Ⅰ・Ⅱとする	
	会社法A/B	2	各2		
	民事訴訟法A/B	2	各2		
	刑事訴訟法A/B	2	各2		
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

副専攻名称	(3) 地理学副専攻コース
担当責任者	経済学部文化経済学科 教授 浅見良露
取得できる修了証書	副専攻 (地理学)
コースの編成・実施方針	
<p>地理学は、私たちの住む世界の様々な事象を、地域的・空間的な面から見ていく学問分野である。地理学の3つの柱である自然地理学、人文地理学、地誌学を基幹科目とし、それらに属する各分野の科目を選択科目とする。地理学副専攻は、主専攻科目に対して、地域・空間的にもものを見る助けとなる。また、地理学の専門的知識を修得することができる。さらに、高校地理や中学社会の教職のための必須科目となる。</p>	
留意事項	
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域から世界まで、地理的知識・見聞を深める力が身につく。</li> <li>・地図や地理情報を活用する、地理的技法を修得することができる。</li> <li>・世の中の様々な出来事を、地域的視野から見、考える力が身につく。</li> <li>・教職課程において地理的分野を専門とする教員の養成に役立つ。</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<p>本副専攻の履修を通じて、地域的な視野からものを見る力が養われる。これによって、社会の様々な課題に対して、地域を考慮に入れた考え方や取り組みができる。特に、地域計画、マーケティング、観光等への応用が期待できる。また、教育界での活躍も期待できる。</p>	

(3) 地理学副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
科 必 目 修	自然地理学概論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		8
	地誌学Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
修 選 科 目 必	人文地理学Ⅰ／Ⅱ	1	各2		4
	人文地理学概論Ⅰ／Ⅱ	1	各2		
選 択 科 目	経済地理Ⅰ／Ⅱ	2	各2		8
	都市地理学	2	2		
	観光地理学	2	2		
	環境地域論	2	2		
	地理情報システムⅠ／Ⅱ	2	各2		
	日本地理学Ⅰ／Ⅱ	3	各2		
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

※ 選択必修科目で4単位を超えて修得した単位については、2単位まで選択科目に加えることができる。

副専攻名称	(4) 環境学副専攻コース
担当責任者	経済学部 世利洋介、浅見良露
取得できる修了証書	副専攻 (環境学)
コースの編成・実施方針	
学部横断的に「環境リテラシー」を修得し、環境を総合的に学べるコースとする。環境保全への高い意識を持って持続可能なライフスタイルを実践する人材を育成すると同時に、本学の地域性を活かした学修プログラムを導入することで、複眼的な視点を持って持続可能な社会づくりに取り組む人材を育成する。	
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境社会検定試験（エコ検定）に合格すること。</li> <li>・最終成果物としてレポート(指定科目で修得していく課題解決型の学びを踏まえて、特定地域での個別課題を設定し、実践・方策を提言した内容を含むもの)の提出を求める場合がある。</li> <li>・説明会に参加すること。</li> </ul>
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する基礎知識を修得する。</li> <li>・環境配慮型市民としての倫理と高い環境意識を身に付けることができる。</li> <li>・広い分野において環境教育の指導者としての素養を学ぶことができる。</li> <li>・持続可能な社会づくりに向けた具体的な方策を企画・実施することができるようになる。</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ検定有資格者であり、企業にあつては環境に優しい企業活動に貢献できる。行政にあつては環境行政、公衆衛生行政、環境団体支援、環境配慮型市民の育成事業において貢献できる。企業教育面や学校教育にあつては、環境教育のリーダーとしての活躍が期待できる。</li> </ul>	

(4) 環境学副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
科 目 修	環境科学Ⅰ／Ⅱ	1	各2		6
	環境の倫理	1	2		
選 択 必 修 科 目	久留米・筑後体験演習	1	2		2
	久留米学(文化と社会)	1	2		
	久留米学(歴史と環境)	1	2		
	地域学演習Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	地域連携実践演習	1	2		
	筑後川流域社会経済論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
選 択 科 目	環境政策論	2	2		12
	地域環境論	2	2		
	環境経済学	3	2		
	環境情報社会学Ⅰ／Ⅱ	3	各2		
	生活環境論	2	2		
	環境教育論	3	2		
	資源循環論	3	2		
	地域環境システム論	3	2		
	環境マネジメント論	3	2		
	環境地域論・環境地理学	2	2		
	エコツーリズム論	2	2		
	グリーンツーリズム論	2	2		
	地域環境論	2	2		
	景観論	3	2		
	アジア地域環境論	2	2		
	自然環境論	2	2		
	環境とビジネスⅠ／Ⅱ	1	各2		
	環境会計論Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	環境法A／B (Ⅰ／Ⅱ)	3	各2		
	国際環境法A／B (Ⅰ／Ⅱ)	3	各2		
環境社会学Ⅰ／Ⅱ	3	各2			
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

副専攻名称	(5) ツーリズム英語副専攻コース
担当責任者	外国語教育研究所 英語部門長
取得できる修了証書	副専攻 ( ツーリズム英語 )
コースの編成・実施方針	
本コースは、ツーリズム英語を学ぶための副専攻コースである。観光英語と観光全般と職業実践について体験型学習と講義によって体系的に学習し、修得することが狙いである。本コースの履修によって、観光業・旅行業の領域での活躍が期待できる。	
留意事項	一部の英語科目は英語コア中級または上級の4単位修得済みであることが履修条件です。各科目シラバス記載の履修条件に注意して履修してください。修了認定条件：指定科目20単位（うち必修10単位、選択A群より2単位、選択B群より4単位、選択C群より4単位）
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光業・旅行業業務に必要な英語運用力（観光英語検定2級程度以上）</li> <li>・ビジネス英語文書を作成できる（英語でeポートフォリオが作成できる）</li> <li>・観光業全般について理解できる ・業種・企業・職業全般について理解できる</li> <li>・英語コミュニケーション能力 ・対人コミュニケーション能力</li> <li>・ビジネスコミュニケーション能力 ・異文化能力 ・就業力</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
アクティブラーニングや体験型学習を通して英語運用力と観光旅行業の専門的知識を同時に修得する。また、観光英語やビジネス英語に特化した学習を行うことで、修了者は観光業（国内・海外）に必要な言語および就業力を身につけることができる。	

区分	科目名	配当年次	単位	備考	必要単位
必修科目	英語オプションE	2	2		10
	英語オプションF	2	2		
	観光論	2	2		
	インターンシップ	1	4	(経) 実習演習とする	
選択科目	A群	英語スポーケンインタラクシヨン 3/4	1	各1	2
		観光英語	2	2	
		旅行業英語	2	2	
	B群	英語オプションA 導入/発展	2	各2	4
		英語スポーケンインタラクシヨン 5/6	2	各1	
		英語インテンシブ I	2	4	
	C群	観光政策論	2	2	4
		観光地理学	2	2	
		地域観光論	3	2	
		国際地域開発論	2	2	
		エコツーリズム論	2	2	
		グリーンツーリズム論	2	2	
		観光ビジネス論 I/II	2	各2	
計					20

2019年度より、必修科目の内、「英語オプションD（発展）」が「英語オプションF」へ変更となりました。

副専攻名称	(6) 韓国学・多文化共生副専攻コース
担当責任者	外国語教育研究所 韓国語部門長
取得できる修了証書	副専攻 ( 韓国学・多文化共生 )
コースの編成・実施方針	
<p>本コースは、韓国の言語及び韓国文化を学ぶ副専攻コースである。東アジアの中でも一番近い韓国についての基礎的な知識及び多様な情報収集能力を身につけるとともに、韓国語の実践的な言語能力と韓国社会や文化などへの知識を体系的に修得することにより、複眼的思考能力及び隣国・隣人に対する異文化への理解を深め、相互・協調性、生涯学習能力を育成することを目的とする。本コースの履修によって、韓国と関連のある分野における職業現場での活躍が期待できる。</p>	
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会には、必ず出席してください。</li> <li>・申請時に必ず面談をするようにしてください。</li> </ul>
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語能力試験 (TOPIK) 3級、又は、ハングル能力検定試験3級 (中級以上) のコミュニケーション能力が修得できる。</li> <li>・韓国についての必要な情報を得るため、韓国語を駆使してインターネットで検索、情報を収集することができる。なお、辞書を引きながら韓国語での文書作成及びメールでのやり取りなどもできる。</li> <li>・韓国社会や韓国文化などについての理解ができる。</li> <li>・韓国語学習について、自ら学習する力を身につけ、生涯学習力の育成が期待できる。</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<p>久留米大学は福岡県に所在しており、福岡県は、日本の中でも韓国と地理的に一番近く、現在に至るまで様々な面から交流が行われている。このような観点から、地域社会及び企業などから韓国語能力のある人材が求められているのが現状である。特に、近隣の大学には、副専攻としての韓国語コースは設けられていないので、本学の学生は、本コースで修得した韓国語及び韓国文化についての知識とコミュニケーション能力を活かして、韓国と関連のある企業やサービス業などの職種で貢献できると期待される。</p>	

(6) 韓国学・多文化共生副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	韓国語Ⅰ (前期・後期)	1	4		10
	韓国語Ⅱ (前期・後期)	2	4		
	韓国語Ⅲ	3	2		
選択科目必	韓国語インテシブ1 / 2	2	各3		6
	韓国語インテシブ3 / 4	3	各3		
選択科目	東アジア文化論Ⅰ / Ⅱ	1	各2		4
	朝鮮史Ⅰ / Ⅱ	2	各2		
	朝鮮政治史A / B	2	各2		
	東アジア経済論	2	2		
	実践ビジネス韓国語Ⅰ / Ⅱ	2	各2		
	実践ビジネス応用韓国語Ⅰ / Ⅱ	2	各2		
	朝鮮史学	1	2		
	韓国語S		2	語学研修単位認定科目は各学部で定める	
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

副専攻名称	(7) フランス学・多文化共生 副専攻コース
担当責任者	外国語教育研究所 フランス語部門長
取得できる修了証書	副専攻 ( フランス学・多文化共生 )
コースの編成・実施方針	
本コースはフランス学・多文化共生を学ぶ副専攻コースである。フランス語とヨーロッパを含むフランス語圏の文化・社会に関して体系的に学びつつ、複言語・複文化能力を高め、多文化共生社会（世界）の実現に貢献できる人材の育成をめざす。	
留意事項	説明会に必ず出席してください。修了には、必修 10 単位、選択必修 4 単位、選択 6 単位が必要です。
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固有の能力・知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語運用能力が付き、フランス語検定 3 級、ヨーロッパ基準 A1 などの資格が取得できる</li> <li>2. ヨーロッパを含むフランス語圏への理解が深まる</li> <li>3. 異なる他者と協同するための異文化・多様性能力がつく</li> <li>4. 多文化共生のためのファシリテーションスキルが身につく</li> </ol> </li> <li>● 汎用的能力 レポートの書き方やノートの作り方などのアカデミックスキルが向上する 他者と協同していくための人間関係能力 話し合う、報告する、発表するなどの日本語コミュニケーション能力 他者とともに学ぶ協同的自律学習能力（生涯学習能力） グローバルな問題に対する感受性</li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
フランス語圏（ヨーロッパ、カナダ、アフリカなど 50 か国以上）との交流・ビジネスに役立つ。英語に加えてフランス語を学ぶことによって複眼的なもの見方ができるようになる。以上を通じて異文化に対する感受性を高め、多文化がせめぎ合う社会・地域・企業・団体の共生に貢献する。	

(7) フランス学・多文化共生副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	フランス語Ⅰ（前・後期）	1	4		10
	フランス語Ⅱ（前・後期）	2	4		
	フランス語Ⅲ	3	2		
選択必修科目	フランス語		2	語学研修単位認定科目は各学部で定める	4
	異文化コミュニケーションⅠ／Ⅱ	1	各2		
	異文化コミュニケーション論	2	2		
	人間関係トレーニング入門	1	2		
	人間関係トレーニング入門（心理）	1	2	文学部心理学科目	
選択科目	人間関係トレーニング応用	2	2		6
	フランス文化Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	ヨーロッパ史Ⅰ／Ⅱ	2	各2		
	ヨーロッパ近現代史Ⅰ／Ⅱ	1	各2		
	外国書講読（法律）A／B（フランス語）	2	各2		
	ヨーロッパ地域研究A／B	1	各2		
	ローマ公法	2	2		
経済統合論Ⅰ／Ⅱ	3	各2			
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

※ 選択必修科目で4単位を超えて修得した単位については、2単位まで選択科目に加えることができる。

副専攻名称	(8) 中国学・多文化共生副専攻コース
担当責任者	外国語教育研究所中国語部門長
取得できる修了証書	副専攻 (中国学・多文化共生)
コースの編成・実施方針	
本コースは、中国学・多文化共生を学ぶ副専攻コースである。中国語基礎を体系的に学び、中国語と日本語の異同に気づき、また中国の文化・社会・政治・経済・ビジネスなどを学ぶことによって、国際社会で活躍できる人材を目指す。	
留意事項	認定条件：必修科目 10 単位 選択必修科目のうち 6 単位以上 選択科目のうち 4 単位以上 計 20 単位以上を修得する 説明会：当副専攻コース説明会に出席すること。
期待される学習成果	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語運用能力(中国語検定試験 3 級 or HSK4 級が合格できる) 及びコミュニケーション能力が習得できる。</li> <li>2. 言語及び社会文化における中日の異同に関する理解が深まる。</li> <li>3. 自律学習能力と社会的協同力が身につく。</li> <li>4. 多文化共生社会に貢献できる人材としての基本的な素養と感受性が身につく。</li> </ol>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語運用能力や中日文化の理解によって中国との交流やビジネスに役立つ。 特に中国との取引に関連ある企業への就職活動時に役立つ。</li> <li>2. 将来性として学術や教育研究などの分野で活躍できる。</li> </ol>	

(8) 中国学・多文化共生副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	中国語Ⅰ(前期・後期)	1	4		10
	中国語Ⅱ(前期・後期)	2	4		
	中国語Ⅲ(通年)	3	2		
選択科目必	中国語インテンシブ1/2	2	各3		6
	中国語インテンシブ3/4	3	各3		
選択科目	中国語概論Ⅰ/Ⅱ	2	各2		4
	中国現代文化Ⅰ/Ⅱ	2	各2		
	外国書講読(法律)A/B(中国語)	2	各2		
	中国政治外交史A/B	2	各2		
	東アジア経済論	2	2		
	東アジア文化論	2	2		
	実践ビジネス中国語Ⅰ/Ⅱ	2	各2		
	実践ビジネス応用中国語Ⅰ/Ⅱ	2	各2		
	中国史学	1	2		
	中国語S		2	語学研修単位認定科目は各学部で定める	
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

副専攻名称	(9) ドイツ学・多文化共生 副専攻コース
担当責任者	外国語教育研究所 ドイツ語部門長 岩田好司 文学部 国際文化学科 大場はるか
取得できる修了証書	副専攻 (ドイツ学・多文化共生)
コースの編成・実施方針	
本コースはドイツ学・多文化共生を学ぶ副専攻コースである。ドイツ語とヨーロッパを含むドイツ語圏の文化・社会に関して体系的に学びつつ、複言語・複文化能力を高め、多文化共生社会(世界)の実現に貢献できる人材の育成をめざす。	
留意事項	説明会に必ず出席してください。修了には、必修10単位、選択必修4単位、選択6単位が必要です。
期待される学習成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固有の能力・知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語運用能力が付き、ドイツ語検定3級、ヨーロッパ基準A1などの資格が取得できる</li> <li>2. ヨーロッパを含むドイツ語圏への理解が深まる</li> <li>3. 異なる他者と協同するための異文化・多様性能力がつく</li> <li>4. 多文化共生のためのファシリテーションスキルが身につく</li> </ol> </li> <li>● 汎用的能力 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートの書き方やノートの作り方などのアカデミックスキルが向上する</li> <li>2. 他者と協同していくための人間関係能力</li> <li>3. 話し合う、報告する、発表するなどの日本語コミュニケーション能力</li> <li>4. 他者とともに学ぶ協同的自律学習能力(生涯学習能力)</li> <li>5. グローバルな問題に対する感受性</li> </ol> </li> </ul>	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス東部)に加え、ドイツ語話者が比較的多いオランダ、東ヨーロッパ(チェコなど)、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、イタリア北部、フランスのアルザス地方、アメリカなどとの交流・ビジネスに役立つ。英語に加えドイツ語を学ぶことによって複眼的なものの見方ができるようになる。以上を通じて異文化に対する感受性を高め、多文化がせめぎ合う社会・地域・企業・団体の共生に貢献する。	

(9) ドイツ学・多文化共生副専攻コース 開講科目表

区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修科目	ドイツ語Ⅰ(前・後期)	1	4		10
	ドイツ語Ⅱ(前・後期)	2	4		
	ドイツ語Ⅲ	3	2		
選択必修科目	ドイツ語S		2	語学研修単位認定科目は各学部で定める	4
	異文化コミュニケーションⅠ/Ⅱ	1	各2		
	異文化コミュニケーション論	1	2		
	人間関係トレーニング入門	1	2		
	人間関係トレーニング入門(心理)	1	2	文学部心理学教科目	
選択科目	ヨーロッパ近現代史Ⅰ/Ⅱ	1	各2		6
	ドイツ文化Ⅰ/Ⅱ	2	各2		
	ヨーロッパ文化論	1	各2	文/経	
	外国書講読(法律)A/B(ドイツ語)	1	各2		
	ヨーロッパ地域研究A/B	1	各2	文/法	
	ローマ公法	2	各2		
	観光論	2	2	文/法/経	
	エコツーリズム論	2	2	文/法/経	
	西洋史学Ⅰ/Ⅱ	1	各2		
計					20

※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。

※ 選択必修科目で4単位を超えて修得した単位は、2単位まで選択科目に含めることができる。

副専攻名称	(10) データサイエンス 副専攻コース
担当責任者	・商学部商学科 教授 穴澤 務 ・文学部情報社会学科 教授 石橋 潔
取得できる修了証書	副専攻 ( データサイエンス )
コースの編成・実施方針	
本コースは、データサイエンス (以下、DS) を学ぶ副専攻コースである。DS を構成する統計学・情報科学・応用領域を体系的に学び、講義と実習によって、DS 全体の理解を深め、データ分析のスキルを修得することができる。本コースの履修によって、データを活用するあらゆるビジネス領域での活躍を期待する。	
留意事項	申請者は、入学前に高校数学 I ・ A ・ II ・ B を学修し、それらに対する苦手意識が少ないことが望ましいです。 説明会に必ず出席してください。
期待される学習成果	
次の 2 つの目標レベルを設定します (どちらかを目指してもらいます) ◎リテラシーレベル：DS に理解のある一般ビジネスパーソンとして ・ DS の全体像や重要性を説明できる。 ・ AI やビッグデータのビジネスでの活用方法を説明できる。 ・ データを扱う際の倫理やセキュリティについて説明できる。 ・ 表計算ソフトによる簡単なデータ分析ができる。 ・ 統計解析の結果を解釈できる。 ◎アナリストレベル：データサイエンティストとして、上記に加えて ・ スクリプト言語を用いて統計解析や AI 的技法を実行できる。 ・ 分析のためのアルゴリズムやプログラムを開発できる。	
社会・地域・企業・団体ニーズに向けた具体的な貢献	
2019 年に内閣府が打ち出した「AI 戦略 2019」において、Society 5.0 を実現し、SDGs に貢献できるような人材の育成が目標として掲げられた。その一環として、ほとんどの大学卒業生が「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーレベルの内容を修得するという目標が設定された。本コースは、そうした人材を輩出するという社会的要請に応え得るものであり、データを活用するあらゆるビジネス領域での貢献が期待できる。	

(10) データサイエンス副専攻コース 開講科目表					
区分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考	必要単位
必修	データサイエンス概論	1	2		2
基礎統計学	統計学Ⅰ／Ⅱ	1	各2	文/法/経/商	4
	基礎統計数学Ⅰ／Ⅱ	1	各2	商	
	心理学統計法	1	2	文	
	統計学概論Ⅰ／Ⅱ	1	各2	経	
情報リテラシー	基礎情報処理Ⅰ／Ⅱ	1	各2	文/法	4
	情報処理Ⅰ／Ⅱ	1	各2	経	
	情報処理入門Ⅰ／Ⅱ	1	各2	商	
	基礎データ分析Ⅰ／Ⅱ	1	各2	商	
	基礎情報技術	1	1	人	
	基礎情報教育	1	1	人	
	応用情報技術	2	2	人	
	応用情報教育	2	2	人	
データ処理	プログラミングⅠ／Ⅱ	2	各2	文/法/経	4
	経営情報プログラミングⅠ／Ⅱ	1	各2	商	
	プログラミング応用Ⅰ／Ⅱ	3	各2	文/法/経	
	経営情報プログラミング応用Ⅰ／Ⅱ	2	各2	商	
応用領域	実験計画法	2	2	文	6
	統計解析	3	2	文	
	社会調査法Ⅰ／Ⅱ	1	各2	文	
	社会調査データ処理実習演習	2	2	文	
	統計的推論	2	2	文	
	経済統計論Ⅰ／Ⅱ	2	各2	経	
	計量経済学Ⅰ／Ⅱ	3	各2	経	
	経営統計論Ⅰ／Ⅱ	2	各2	商	
	サービスビジネス論Ⅰ／Ⅱ	2	各2	商	
	応用情報科学Ⅰ／Ⅱ	2	各2	文/法/商	
	データベース論Ⅰ／Ⅱ	2	各2	経	
	データサイエンス実践	1	2		
	ITビジネス論Ⅱ	2	2	商	
	適応情報処理入門	3	2	経	
	データマイニング入門	3	2	経	
計					20
※ 配当年次については、各学部規則に定めるものとする。					